
162話 妖精ニート

吉川明人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

162話 妖精ニート

【Nコード】

N0220T

【作者名】

吉川明人

【あらすじ】

海岸で拾ったツボから出てきた妖精が、お礼に願いを叶えてくれると言つのでオレは「金に囲まれて生活したい」と答えた。

「金に囲まれて生活したい」

海岸で拾ったツボから出てきた妖精みたいな奴が、お礼に願いを叶えてくれると言うのでオレはそう答えた。

「それならお安い御用でさ」

妖精が何やらモゴモゴ唱えて左の人差し指を立てたとたん、オレのまわりには金属製品が山のように出現する。

「違う！ 金と言ってもお金のことだ。貨幣だよ」

すると妖精は「こりゃ失敬」と、またモゴモゴ唱え、今度はスゴイ量のコインを出現させた。

金貨や銀貨ならばと確かめてみると、どれも安っぽい金属で作られた本当にただのコインばかり。

「違うだろ、ちゃんと価値のある金に囲まれたいんだ」

「うむむ。オラっちは長いあいだ閉じ込められていたんで、今の人間の価値がよく分らんのでさ」

「なるほど。それは確かに」オレは妖精の言葉に納得した。

長年、人間の世界から離れてツボの中で暮らしていたのでは、世間の感覚から離れていても仕方ない。

「だったらオレの家に来て、しばらく社会見学するか？ パソコン使えば大抵の情報は手に入るぞ」

「な、なんでさ？ その“ばそこん”とやらは？」などと最初のころ言っていたのがウソのように、妖精はすっかりネットにはまってしまった。

金の価値もすぐに覚え、自分名義の口座まで開設してオークションにネットゲなど、オレが仕事に出かける前からパソコンの前を陣取り、帰ってきててもまだ続けている。

「廃人になるのは勝手だが……」見かねたオレは妖精に声をかけた。

「お前はいつオレの願いを叶えてくれるんだ？」

「そんなのいつでもできますでさ。それよりもう少しでボスが倒せるんでさ。」

こうなったら少し高くても聖剣ジウムジウマを購入して……」

モゴモゴ唱えて左の人差し指を立てて、妖精自身の口座の残高画面を開くと、めまぐるしく数字が点滅してケタが1つ上がり、すぐさま引き落とし手続きをすると、画面の向こうでは勇者が何やらスゴイ剣を手に行っている。

「そんな方法があるなら、オレの口座にも振り込んでくれよ」

「今のはオラっちが投資している株を、瞬間的に売り買いして儲けた金でさ」

「だったらオレの口座にも同じことをしてくれ」

だが妖精はオレに目もくれず、

「まあまあそうおっしやらずに」などと言いやがった。

こいつ、オレの願いを叶えてしまったら、ツボに戻らなければならぬのを嫌がってやがる。

すでに願いなんて叶える気がないことに気づいたオレは、妖精の首根っこをつかんで海から持ってきたツボに無理やり押し込めてやった。

「ヒイイツ！ お助け、お助けえ！」と騒いだが、もう許さない。

フタをしめようとする直前「せ、せめてパソコンだけは、パソコンだけは使わせてくだせえ！」と情けない声が聞こえた。

確かに一度パソコンにハマれば手放せなくなる気持ちは分からないでもない。

少しかわいそうに思ったオレは、次の日、中古のパソコンを買ってきてツボの前に置いた。

「これをやるから魔法で中に取り込め。」

買い物をしたいなら、受け取りと、ここへ運んでやる手数料として商品代金に10%プラスしてオレの口座へ振り込めば代行してや

る。

それと、毎月の電気代もお前に請求するぞ」「すると中から「お願いします」と声がして、パソコンが消えた。

これで妖精に願いを叶えた自覚がなくても、オレはかなりの金を手にできる。

自由に金が手に入り、画面の前で数字だけを動かすうちに金を金とも思わなくなつて、欲しいものを欲しいだけ買ってしまつようになるんだ。

そのうちいきなりブレーカーでも落として驚かせてやろつ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0220t/>

162話 妖精二一ト

2011年10月6日20時44分発行